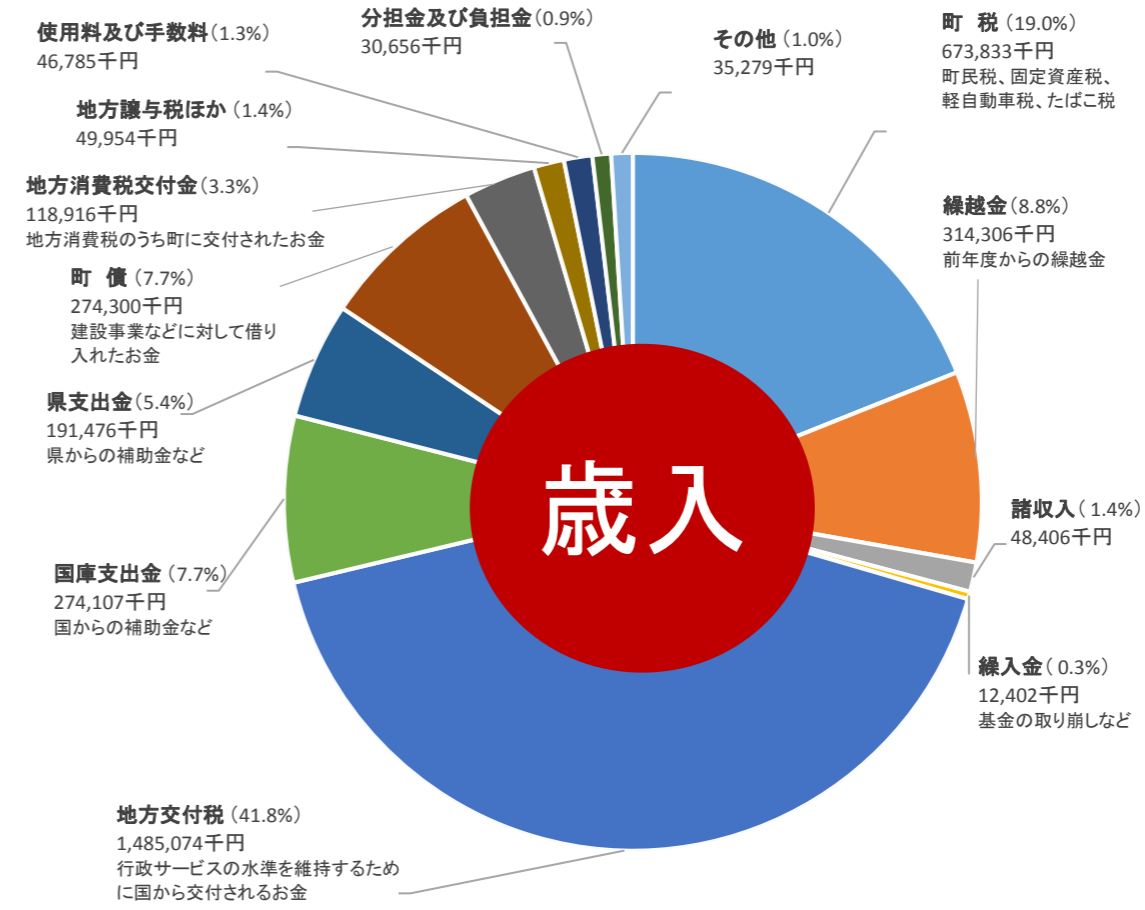


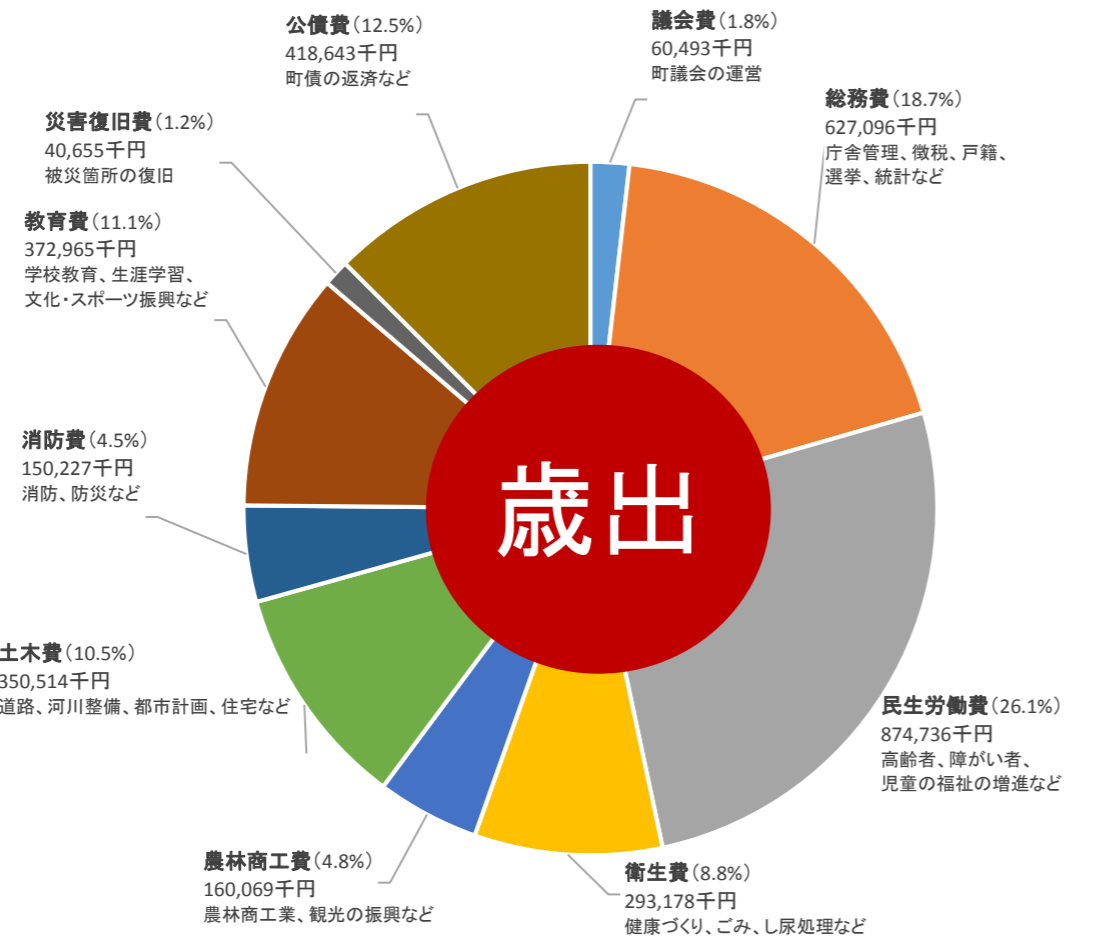
# 平成30年度 決算

## 一般会計

**歳入 35億5549万4千円**



**歳出 33億4857万6千円**



**一般会計**  
**実質収支は**  
**1億6899万2千円の黒字**  
**単年度収支は**  
**8391万2千円の赤字**  
 一般会計決算額は、歳入が35億5549万4千円、歳出が33億4857万6千円で、差し引き、2億691万8千円の黒字とな

りました。このうち令和元年度に実施する事業の財源3792万6千円を差し引くと、実質収支は1億6899万2千円の黒字となりました。しかし、前年度の実質収支が2億5290万4千円でしたので、これを差し引いた単年度収支は8391万2千円の赤字となりました。

平成30年度の決算が令和元年町議会第3回定例会で認定されました。決算は、町にどれだけのお金が入り、どのような事業に使ったかを表す家計簿です。決算を通してみなさんに納めていただいた税金をどのような事に使わせていただいたか、町の財政状況などの概要をお知らせします。  
 (千円未満は四捨五入)

## 会計別の決算

会計名	歳入額	歳出額	差引額	
一般会計	3,555,494千円	3,348,576千円	206,918千円	
特別会計	学校給食特別会計	26,356千円	26,356千円	0千円
	国民健康保険特別会計	837,299千円	776,696千円	60,603千円
	下水道事業特別会計	225,549千円	212,641千円	12,908千円
	後期高齢者医療特別会計	115,448千円	114,741千円	707千円
	介護保険特別会計	861,444千円	845,678千円	15,766千円
企業会計	収入額	支出額	差引額	
水道事業会計	収益的収入及び支出	223,510千円	190,077千円	33,433千円
	資本的収入及び支出	2,908千円	32,179千円	▲29,271千円

## 歳入

自主財源である町税は微増しましたが、地方交付税は大きく減少となりました。

また、給食センター建設事業の完了に伴い、国庫支出金、町債が減少となり、前年度に比べ1億3537万8千円(37%)減少しました。

歳出の決算額は33億4857万6千円で、前年度に比べ2799万円(0.8%)減少しました。

これは給食センター建設事業費が減少している一方で、委託料や国営大和紀伊平野土地改良事業負担金の増加したためです。

## 特別会計

5つの会計決算は全て黒字  
 特別会計とは、特定の事業を行うための経費を一般会計と区別する必要がある場合に設置する会計で、5つの特別会計の決算額は右表のとおりです。

## 水道事業会計

収益的収支は3343万3千円の黒字  
 独立採算で運営を行う公営企業に水道事業があります。決算額は右表のとおりです。収益的収支は損益計算による当年度純利益が3343万3千円の黒字となりました。なお資本的収支は2927万1千円の不足が生じたため、当年度損益勘定留保資金や当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額などで補填しました。

## 健全化判断比率

4つの指標全て基準値内  
 自治体が財政破綻することを未然に防ぎ、破綻しそうな自治体の財政を早期改善するため、財政状況を4つの指標として数値化します。

高取町では、4つの指標全て、基準値内の結果となりました。

健全化判断項目	高取町 (平成30年度比率)	早期健全化 基準	財政再生 基準
①実質赤字比率	—	15.0%	20.0%
②連結赤字比率	—	20.0%	30.0%
③実質公債費比率	9.4% (3カ年平均)	25.0%	35.0%
④将来負担比率	120.5%	350.0%	—

早期健全化基準…財政状況が悪化しつつあり、早期に改善が必要な基準  
 財政再生基準…行政運営に国や県の関与や勧告を受ける基準

## 【用語説明】

- ①実質赤字比率  
一般会計等の実質的な収支が黒字か赤字かを判断するための指標
- ②連結実質赤字比率  
一般会計等と特別会計、企業会計の合計の実質的な収支が黒字か赤字かを判断するための指標
- ③実質公債費比率  
標準的な年間収入に対して、地方交付税などで措置される部分を除いた借金の返済額の割合
- ④将来負担比率  
標準的な年間収入に対して、将来負担しなければならない借金などの割合